

版画家 レンブラント展

長雨と台風の間を潜り抜けた小雨の中、一年ぶりの国立西洋美術館は、思ったよりも早く入館することができました。

銅版画の制作は 15 世紀末のドイツの画家ショーンガウアー、デューラー、17 世紀のレンブラントなどが優れた銅版画を制作しました。本展は、レンブラントほか多数の作者を含み 134 点が展示掲載されていました。

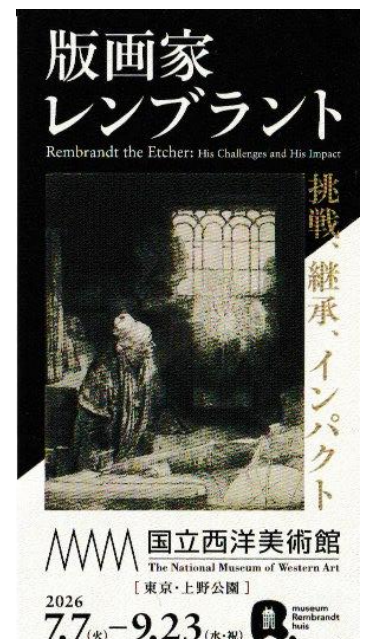
展示物は「作品リスト」によると年代ごとに 3 区分に分けられ展示されていました。

- 1.レンブラント、版画の挑戦(作品 No.1-No.58)
- 2.受け継がれる遺産：17-18 世紀(作品 No.59-No.87)
- 3.世紀を超えるインパクト：19-20 世紀(作品 No.88-No.134)

19-20 世紀展示にアンリ・マチス、パブロ・ピカソ、

アルベルト・ジャコメッティが展示されている。

私は会場の列に加わりゆっくりと牛歩のごとく、じりじりと押されながら小サイズの作品に気持ちが削がれながら凝視しました。



観覧者の年配者はカメラ、若い人は単眼鏡を持ち、中にはノートに短い鉛筆を用いて作品、キャプション等を記載している女性もあり通常の絵画展にない緊張感を感じました。

私の目的は「17 世紀オランダの巨匠で光と影の表現を極めた腐食技法(エッチング)を多数残した」と伝えられたレンブラント作品を詳しく観察することでした。「光の画家」と言われるように、明暗の表現、線の粗・密によって明るさや暗さを表現した人物の立体感を私は鑑賞、観察しました。

[印象に残った作品]



No.32 レンブラント「放蕩息子の帰還」1636 年エッチング

「父のもとを飛び出した息子が、人生のあらゆる罪と快樂を捨てて、無一文で家に戻ってきた。叱責されて当然のこの行状にもかかわらず、彼は父に暖かく迎えられえる。息子の肩に置いた老父の無骨な手を通して寛大で暖かい愛を表現しているが、レンブラントの描く手の表現力に満ちていることか。」（解説書より）



No.39 レンブラント「百グルデン版画」1648 年エッチング、ドライポイント、ビュラン/和紙



No.84 レンブラント「パンケーキを焼く女」1635 年エッチング



No.118 シャルル・ワルトネ「夜警(レンブラントに基づく)」1886 年エッチング、ドライポイント/和紙

「展示された『夜警』は、明暗の対比によって高度な群像画を作り出している。」(解説書より)



No.119 レンブラント「三本の木」1643 年エッチング、ドライポイント、ビュラン

「空まで描かれている風景エッチングは 2 点しか制作されておらず、本作品は、その 1 点である。」(解説書より)



No.131 アンリ・マティス「版画を彫るアンリ・マティス」1900-03 年ドライポイント

帰宅後、解説書を眺めながらカメラに収めた、作品の構図と明るさや暗さを表現した光の構成に私は、偉大さを感じました。就寝時ラジオ深夜放送は、以前「日曜美術館」を担当された女性アナウンサーで懐かしく、版画の難しさを感じた一日の癒しのことばを傾聴しているようでした。

現在、私が取組んでいるエッチング作品は、愛知県滝山寺の聖観音菩薩・梵天・帝釈天像です。

三尊像とも、桧材像で鎌倉時代に造立され、その後、補修で痛んだ上に削り落としもせずに江戸時代から明治頃に極彩色の補彩が厚く施されています。

帝釈天立像は顔面に細かい割れが生じている、冥福を祈るまなざしを陰影にて強調し今年 3 月制作しました。

梵天立像は、艶やかな気品をたたえる四つの顔を制作中で、切れ上った目尻と力強い顔立ち、体の自然な運動感を表現することに制作中で今年 10 月には完成させたいと思っています。

中心に安置する聖観音菩薩立像は、下絵を制作中で年末までに完了すべく、量感に満ちた体躯と力強い顔立ちの陰影を表情に活かせるように模索しています。

以 上